

第Ⅱ期・全7巻

# 伊東忠太

# 建築資料集

〔監修・解説〕

倉方俊輔

大阪市立大学大学院准教授



明治20年代以降の建築界に多大な影響を与え続けた伊東忠太。建築家・建築史家としての活動と、それらを支える独自の思想・世界観を知るための文献資料を集成。

写真集成

# 近代日本の建築



大倉集古館（東京市・昭和2年）  
背景：東京帝国大学卒業設計図（明治25年）

ゆまに  
書房 YUMANI  
SHOBOU

# 刊行にあたって

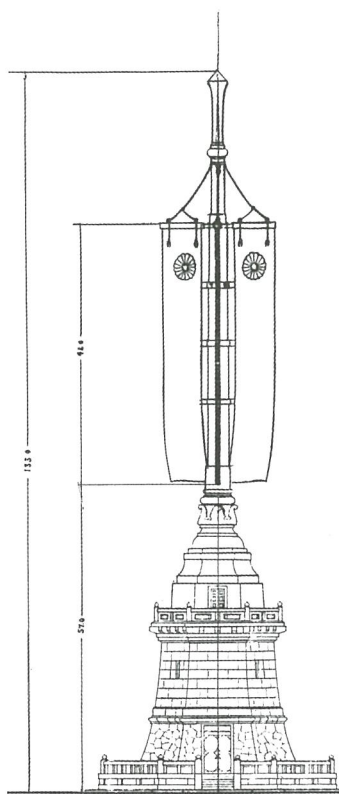
## 倉方俊輔

今回の復刻を通じて、伊東忠太の「世界」はより広く知られるだろう。それが嬉しい。伊東忠太は日本初の建築史研究者といえる。日本建築史・東洋建築史の枠組みを作った学者として学士院会員と芸術院会員になり、建築界で初めて文化勲章を受賞した。けれど、カテゴリーを創始した人物が少なからずそうであるように、伊東もその後の「建築史研究者」のカテゴリーには収まり切らない。先鋭的な批評で建築界に初めて言葉の力を発動させ、一般向けの平易な解説にも勉め、過去の様式の復元を担う一方で、建築設計が未来を切り拓くものであることを実践しようとした建築家でもあった。幼い頃からの絵心は、建築の枠を超えて数多くの戯画類にも発揮された。

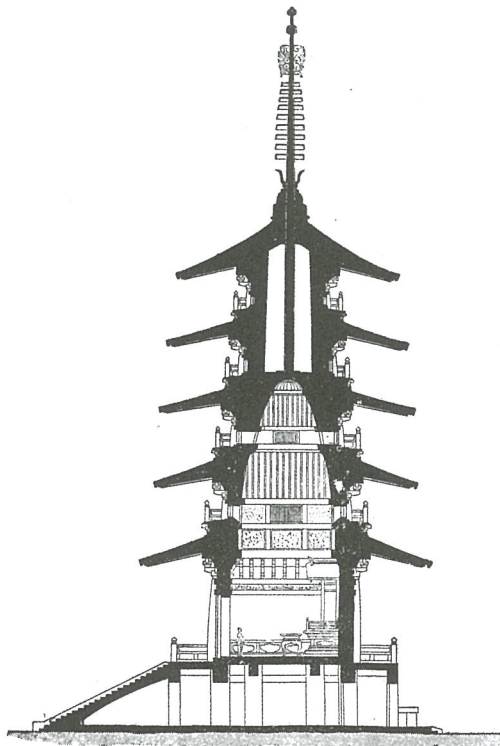
こうした幅広い活動は、けっして

バラバラではない。今回復刻された三冊、一九〇二〜〇五年の世界一周留学の経験を二五〇のコラムで伝える『余の漫画帖から』、一九一四〜一八年の第一次世界大戦の成り行きをリアルタイムで五〇〇枚の戯画で描写した『阿修羅帖』、非実現に終わった作品やすでに失われたものも含めて百数十作品の詳細を明らかにする『伊東忠太建築作品』を見れば、その中心に伊東忠太の世界観があることが伺い知れるだろう。機智にあふれた内容は、建築分野以外の方も驚かせるはずだ。建築家は世界を自分なりに捉え、建築を通じて世界をより良いものに変えていこうとする。だからこそ、私たちは伊東忠太が見た「世界」を通じて、二〇世紀前半の「世界」を再考し、未来の糧にできる。

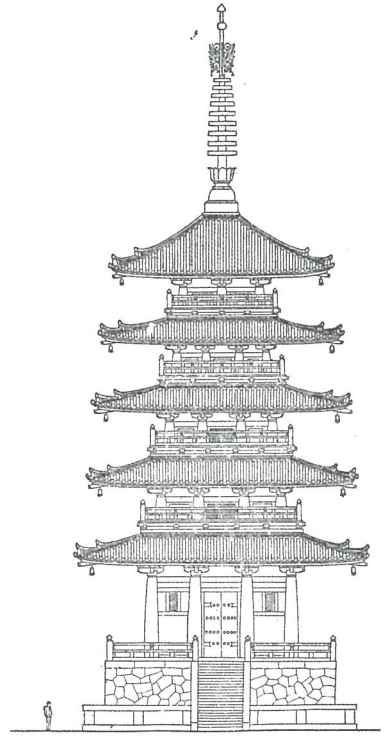
（大阪市立大学大学院准教授）



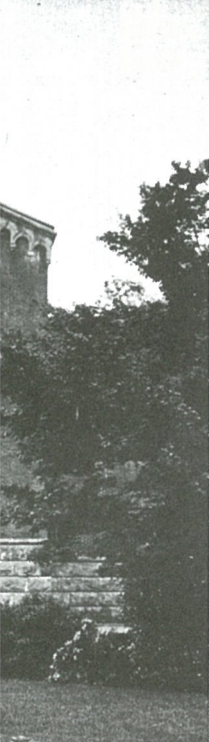
明治記念塔（未実施・京都市・昭和3年）



五重塔（未実施）

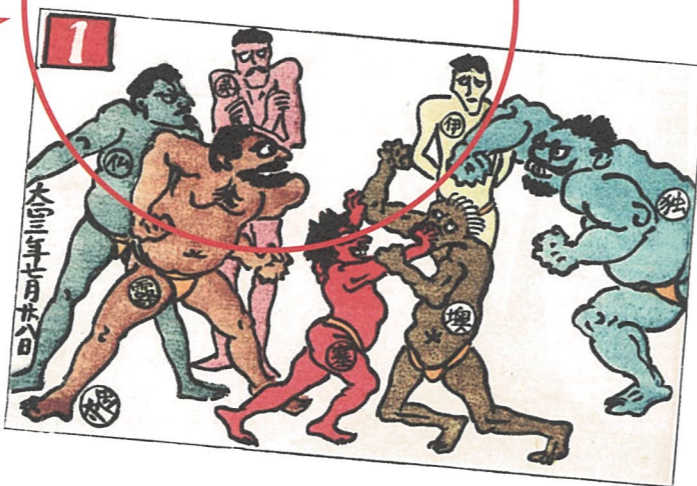
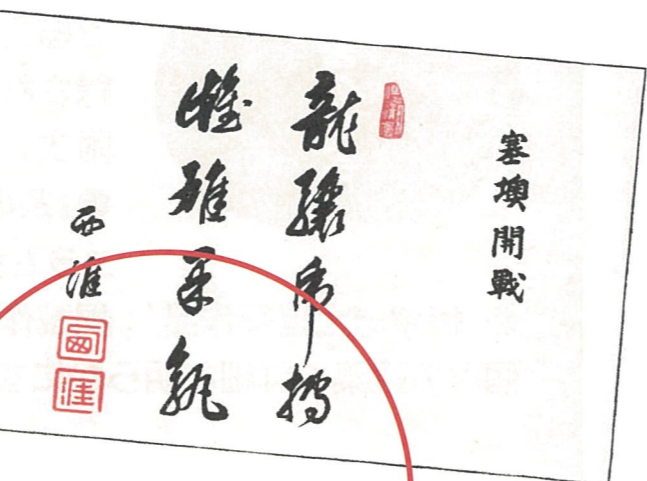
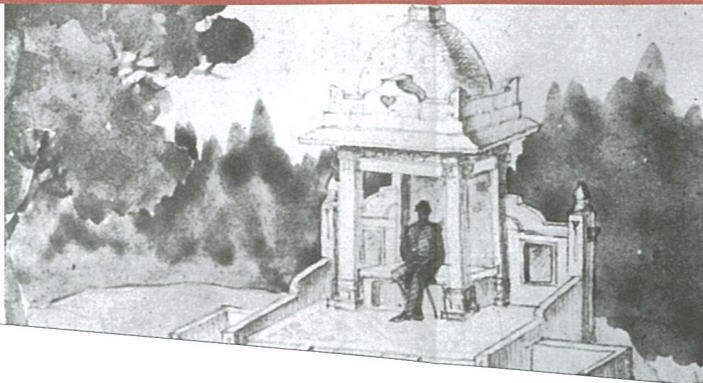


不忍弁天堂天龍門（東京市・大正3年）

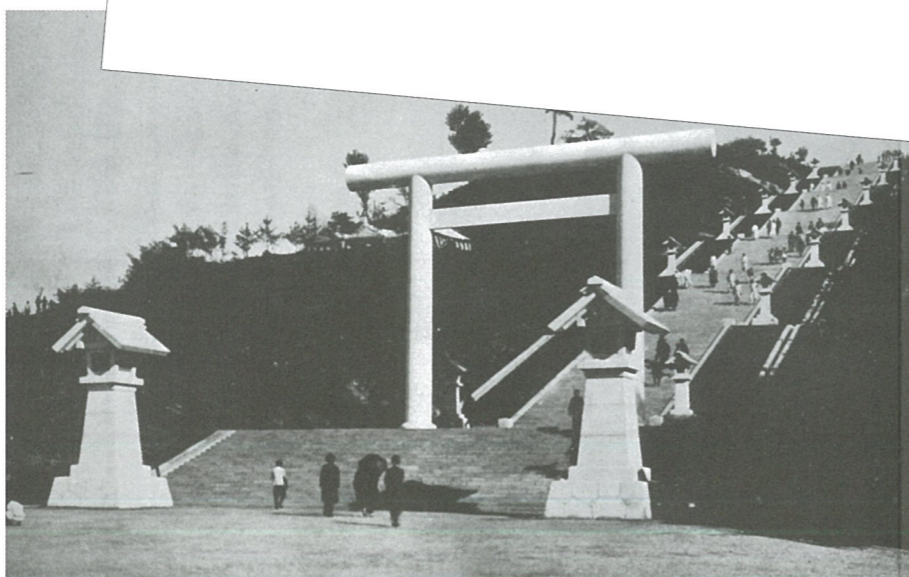




東京商科大学兼松記念講堂(北多摩郡・昭和2年)



図版はすべてカラーで収録。



朝鮮神宮(京城市・大正14年)

「阿修羅帖」全五〇〇図に  
詳細な解説を附す。

001  
1914年7月28日 塞埃開戦

「塞」は「塞爾維」(セルビア)の略称で、当時のセルビア王国(以下「セルビ」)。「奥」は「奥大利」(オーストリア)の略称で、当時のオーストリア・ハンガリー帝国(以下「オーストリア」)を指す。オーストリアは1914年7月23日にセルビアに対して最後通牒を通告、7月28日に宣戦布告した。帝位継承者であるフランツ・フェルディナント大公夫妻が6月28日に自国領内のサラエボでセルビア人の青年に暗殺された(サラエボ事件)ことを勢力拡大の好機と捉えての侵攻だった。当初は短期決戦が想定されており、これが4年におよぶ世界大戦の幕開けになるとは考えられていなかった。

ていたため、一歩引いて様子見の姿勢をとっている。顔はイタリア王ヴィットリオ・エマヌエーレ3世を彷彿とさせる。なお、イタリアは翌年5月23日に連合国側に付いてオーストリアに宣戦した(絵110)。

対するセルビアの背後には、ロシア帝国(以下「ロシア」)、フランス、イギリスの三国がいる。ドイツに対抗する「三国協商」に基づいた連合国である。これも参戦への姿勢は三者三様だ。濃い口ひげのロシア皇帝ニコライ2世はすでに戦う準備を整え、今にも手を出しそうだ。フランス大統領レーモン・ポアンカレも厳しい表情で、ドイツへの対抗心を露わにしている段階。これに対してイギリス国王ジョージ5世は腕を組んで思案中である。

もう一つ注目したいのは、ドイツ、ロシア、フランスの目線が、セルビアとオーストリアの小さな取っ組み合いには向いておらず、向こう側の手を見据えていること。こうした列強の勢力争いと、い性格が、結果的に大戦を後に引けない長期戦に変えた。各国の姿勢を描き分けながら、開戦時の状況を一枚にまとめ上げる伊東の能力が発揮されている。

本文見本  
「阿修羅帖」第1巻より  
65%に縮小

写真集成 近代日本の建築・第1期

「解説」松波秀子(清水建設株式会社技術研究所)

# 清水組 工事年鑑

## 全7巻

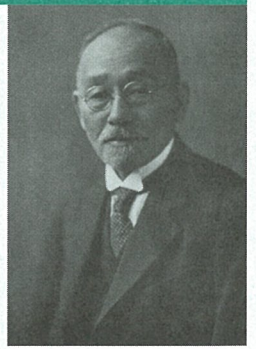


●挿定価一六一七〇〇円(本体一五四〇〇〇円) ISBN978-4-8433-3641-0

昭和期の  
代表的建築物を網羅。  
外観ばかりでなく、  
屋内や内装も記録。  
最終巻末に  
解説を附す。



日本屋大塚分店(京都市・昭和13年版)



伊東忠太 (いとうちゅうた)

一八六七（慶応三年、米沢藩座頭町（現山形県米沢市）に生まれる。帝国大学工科大学造家学科卒業、大学院進学。一八九三（明治二六）年「法隆寺建築論」を発表。同年に平安神宮の技師として京都赴任。翌年「アーキテクチュール」の本義を論じて其の訳字を撰定し我が造家学会の改名を望む」を発表し造家学会の改称を主張（現日本建築学会）。一八九七（明治三〇）年帝国大学講師、九九（明治三二）年助教教授就任。一九〇一（明治三四）年『稿本日本帝國美術略史』の建築に関する執筆（後に「建築之部」を担当する。翌一九〇二（明治三五）年より留学。清国、ビルマ、インド、トルコ等アジア諸国を訪れ、ギリシャおよびヨーロッパ諸国、アメリカを経て三年三月後の一九〇八（明治三八）年に帰国。同年に東京帝国大学教授就任。翌一九〇九（明治四二）年に発表した「建築進化の原則より見たる我邦建築の前途」で「建築進化論」を主張する。一九一一（明治四四）年より早稲田大学でも教鞭を執る（一九二八年教授就任）。帝国学士院会員（一九二五・大正一四）、帝国芸術院会員（一九三八・昭和一三）となり、一九四三年（昭和一八）年には建築界で初めて文化勲章を授与される。一九五四（昭和二九）年逝去、享年八六歳。

本書の特色

●『阿修羅帖』：1914（大正3）年から1950（昭和25）年まで描き続けた時事漫画（総数3,717枚）より、本書全5巻に収録された1918（大正7）年までの500枚すべてに個別解説を附す。第一次世界大戦期の世相を反映する第一級史料。

●『余の漫画帖から』：世界各地の文化と風俗を伝える250点のコラム集。個々の日付・内容を考証し解説を附す。

●『伊東忠太建築作品』：掲載作品137点の、現存・非現存、背景、関連文献情報など、個々の建築の詳細を明らかにする解説を附す。



本文見本  
「伊東忠太建築作品」より  
約55%に縮小

199.....らか帖置巻の余

苗子  
カシマ子  
シヤン子  
西蕃人

族 蠻 南 西 那 支

一六八 孔明の征伐した南

彼の羅夷即ちシヤンは唐時代に南詔國、床時代に大理國を建てた民族で、一時は緬甸の東北部から今の雲南省全部及貴州廣西の大部分を占領したが今日では雲南の西南及緬甸の東北境暹羅の北境に散在する容貌も漢人よりは寧ろ優良で能力も左まで低劣ではない。野人即ちカチンは今日は緬甸の東北境に多い様であるが、これは容貌野蠻醜惡で殆ど鬼畜の如く異様な風俗は原始的蠻氏の通性を發揮したもので、文字をも有せざる低級民である。

本文見本  
「余の漫画帖から」より  
約65%に縮小

紙 園 閣  
京 都 市 眞 基 寺 原

起 工 大 正 十 五 年 七 月 五 日  
竣 工 昭 和 二 年 十 二 月 十 日  
敷 地 面 積 一 四 二 一 ． 一 三 坪  
建 坪 三 八 ． 三 四 坪  
總 高 一 二 〇 尺

圖 面 正  
圖 面 平 階 層 下

\*『阿修羅帖』の見本は中面にございます。

# 伊東忠太建築資料集 全7巻

【監修・解説】 倉方俊輔 写真集成 近代日本の建築 第Ⅱ期 (写真集成 近代日本の建築 第8巻～第14巻)  
 ● 揃定価 174,300円 (本体166,000円) ISBN978-4-8433-4066-0 C3352 A5判・B4判・B5判/上製/クロス装/函入

第一回配本・全5巻 ● 揃定価 131,250円 (本体125,000円) ISBN978-4-8433-4074-5 C3352 2013年6月刊行予定

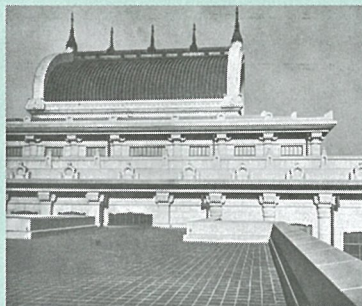
※伊東忠太建築資料集 第一回配本・全5巻は、写真集成 近代日本の建築 第8巻～第12巻に該当します。

- 8 ● 阿修羅帖 第一巻 (大正9年 国粋出版社) / 解説・解説 (B5判) 定価26,250円 (本体25,000円) ISBN978-4-8433-4067-7
- 9 ● 阿修羅帖 第二巻 (大正9年 国粋出版社) / 解説 (B5判) 定価26,250円 (本体25,000円) ISBN978-4-8433-4068-4
- 10 ● 阿修羅帖 第三巻 (大正10年 国粋出版社) / 解説 (B5判) 定価26,250円 (本体25,000円) ISBN978-4-8433-4069-1
- 11 ● 阿修羅帖 第四巻 (大正10年 国粋出版社) / 解説 (B5判) 定価26,250円 (本体25,000円) ISBN978-4-8433-4070-7
- 12 ● 阿修羅帖 第五巻 (大正10年 国粋出版社) / 解説 (B5判) 定価26,250円 (本体25,000円) ISBN978-4-8433-4071-4

第二回配本・全2巻 ● 揃定価 43,050円 (本体41,000円) ISBN978-4-8433-4075-2 C3352 2013年12月刊行予定

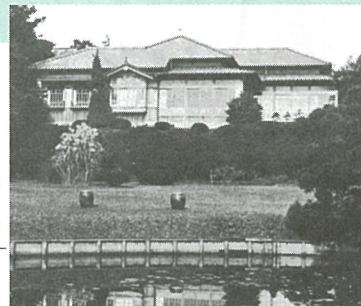
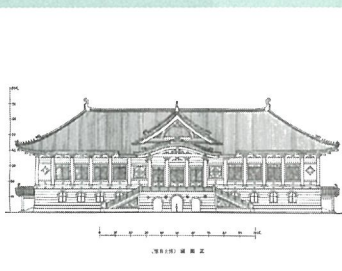
※伊東忠太建築資料集 第二回配本・全2巻は、写真集成 近代日本の建築 第13巻・第14巻に該当します。

- 13 ● 余の漫画帖から (大正11年 実業之日本社) / 解説・解説 (A5判) 定価16,800円 (本体16,000円) ISBN978-4-8433-4072-1
- 14 ● 伊東忠太建築作品 (伊東博士作品集刊行会 昭和16年 城南書院) / 解説・解説 (B4判変型) 定価26,250円 (本体25,000円) ISBN978-4-8433-4073-8



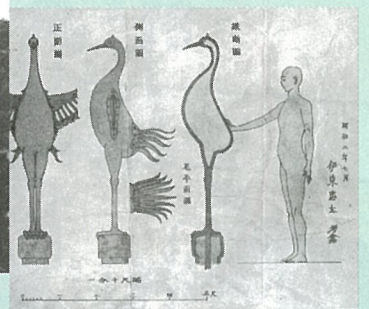
築地本願寺大本堂上部 (東京市・昭和9年)

北京図書館 (未実施・北京・昭和元年)



萩外荘 (東京市・昭和2年)

祇園閣・頂上の鶴 (京都市・昭和2年)



- ★続刊予定★ 写真集成 近代日本の建築 第Ⅲ期 ● 15 ● 『承業式拾五年記念帖』 (大正13年 合名会社竹中工務店) \*収録件数141
- 竹中工務店** 承業式拾五年記念帖・ ● 16 ● 『建築写真帖』 (昭和2年 合名会社竹中工務店) \*収録件数152  
 建築写真帖 全5巻 ● 17 ● 『建築写真帖 第二輯』 (昭和6年 合名会社竹中工務店) \*収録件数110
- 【監修・解説】 石田潤一郎 (京都工芸繊維大学教授) ● 18 ● 『建築写真帖 第三輯』 (昭和10年 合名会社竹中工務店) \*収録件数111  
 松隈章 (株式会社竹中工務店) \*定価未定 ● 19 ● 『建築写真帖 第四輯』 (昭和14年 株式会社竹中工務店) \*収録件数207

関連企画のご案内	銅像写真集 <b>偉人の俤</b> 全2巻 [総監修] 北澤憲昭 稿本 <b>日本帝国美術略史</b> 全1巻
	[監修・解説] 田中修二 揃定価60,900円 (本体58,000円) [監修] 小路田泰直 定価39,900円 (本体38,000円)
関連企画のご案内	<b>近代日本のデザイン</b> 既刊46巻
	[監修] 森 仁史 揃定価791,700円 (本体754,000円) [監修] 五十殿利治 揃定価294,000円 (本体280,000円)



〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6  
 TEL .03 (5296) 0491  
 FAX.03 (5296) 0493  
<http://www.yumani.co.jp/>  
 e-mail eigyou@yumani.co.jp

● 特におすすめしたい方 ● 建築史、技術史、思想史、日本近現代美術史の研究者、研究機関、建築事務所、公共図書館、建築に関心のある方など。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		取扱店
	写真集成 近代日本の建築 第Ⅱ期 <b>伊東忠太建築資料集 全7巻</b>		
	<input type="checkbox"/> 第1回配本・全5巻 <input type="checkbox"/> 第2回配本・全2巻    セット		
お名前			
ご住所			
TEL ( )		12.10/01.7000.H	

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。